

きっとアナタもだまされる…?! 「錯視」のふしぎを体感!!

この夏、当館では初めての「錯視」(さくし)・「錯覚」(さっかく)をテーマとした企画展『ふしぎ錯覚ミュージアム』を開催しました。

よく知られている図形や色の錯視をはじめ、動く錯視など平面作品から立体作品まで多くの錯視の展示がなりました。

会場では、親子が作品の前で会話する姿がよく見られました。例えば、上の線と下の線の長さが違って見える図形では、作品の近くに用意してある定規を当て、「実は同じ長さだよ、不思議だね。」と、親子で確かめながらコミュニケーションを深めていたようです。

今回、特に人気のあったのが、あたかもブラックホールに吸い込まれるような写真が撮れるスポットでした。見た目は平面なのですが、カメラを通すと穴が開いているように見えるのです。写真を撮って夏の思い出にさせていただけたなら幸いです。



モデル：喜劇団・笑劇波南平さん

笑劇サイエンスショー

「笑劇流 全集中! みずしらずの呼吸!」

8月5日から9日まで、毎年大好評の笑劇サイエンスショーを開催しました。

喜劇団・笑劇波のあかねちゃんと、しんちゃん研究室のしんちゃん、アニータ、ももちゃんが博士として日替わりで出演し、水にまつわるいろいろな実験を行いました。

遠心力、大気圧、表面張力を利用したあっと驚く実験内容に、お客さんは興味津々で見入っていました。中でも、水の入った巨大バケツの実験では、失敗すると博士がびしょぬれになるという設定でハラハラドキドキ、大成功をすると客席からは拍手喝采が上がりました。

笑い声と歓声の絶えない楽しいショーで、大盛り上げの5日間でした。



☆天文トピックス☆

満天の星を映し出すプラネタリウムに注目!

みなさんは、星を映す機器「プラネタリウム」に注目したことはありますか? プラネタリウムは、この世界に誕生してまもなく100年を迎えます。

プラネタリウムは1923年にドイツで誕生しました。日本へは1937年に大阪市立電気科学館(現:大阪市立科学館)に設置されたものが最初です。現在、プラネタリウムは全国に300以上あり、愛知県内だけでも11施設あります。施設によって、機器だけでなくドームの大きさや傾きも違うのでいろいろ見比べてみるのもおもしろいかもしれません。

当館のプラネタリウムは、豊田産業文化センタープラネタリウムとして1985年にオープンし、2008年の更新を経て現在に至っています。そのプラネタリウムが2022年春に次の更新を迎えます。光学機器がLED化され、映像を映すプロジェクターもより高精細なものになり、音響機器も一新されます。工事は12月から始まり、3月末には皆さんにお披露目できる予定です。新しくなるプラネタリウムにもぜひご期待ください。



伝統的七夕ってなに?

8月14日(日) 親子天文教室

8月14日(土)に、親子天文教室 夏の星空観望会~七夕の夜に~が行われました。講師は、当館ではおなじみの大人気の天文アドバイザー浅田英夫先生です。

七夕といえば7月7日ですが、本来は旧暦(昔のカレンダー)の7月7日に行われます。今年に当てはめると8月14日にあたります。梅雨も明けて七夕の星も空高く見えるので、みんなで空を見上げることができると楽しみに思っていました。残念ながら雨となり、観望会は中止となりました。

しかし、浅田先生は、「雨が降ってもカササギという鳥が天の川に橋を架けて、二人が会えるようにしてくれるので大丈夫。そして、いつかは晴れるのでまた星を見てください」とおっしゃっていました。講演後の質疑応答では、たくさんの質問が飛び交いました。大満足の親子天文教室となりました。

